資料－2

流域連携テーマの課題解決に向けての連携　（第5回全体会議資料より）

矢作川流域圏懇談会の課題となっている山・川・海の連携について、昨年度から進められている流域連携テーマの成果、市民会議における意見、今後の活動方針を示した。

1　流域連携テーマに関する背景と成果

平成 26 年度に、山・川・海が連携した勉強会において「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3つの課題が抽出され、主務担当者を決定した。その後、部会の枠を越えた河川整備計画の内容や現地視察等の勉強会を通して、基礎的な知識を共有するとともに、山・川・海の相互理解が図られた。

H27年度は 5 月に市民企画会議を行い、流域連携テーマに向けた活動について話し合いがもたれたが、流域連携テーマを主議題とした会議（作業部会）については開催することができなかった。そのため、ここでの報告は、あくまで各 WG で議論された流域連携テーマに係わる成果を示すものである。

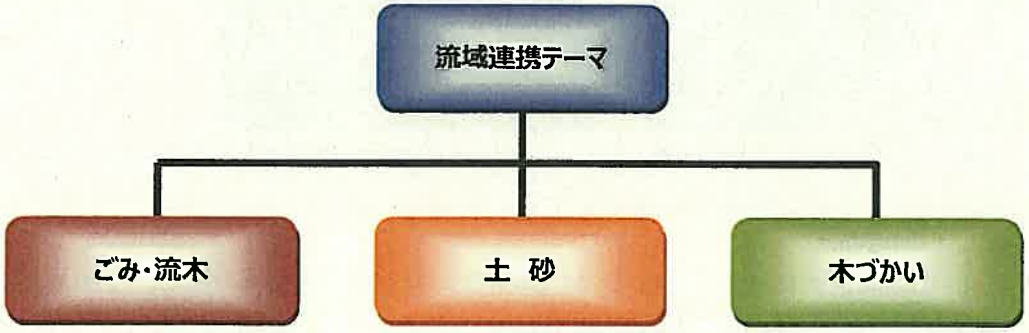


図 3-1　平成 26 年度に設定された流域連携テーマ

1．2　ごみ・流木

主に海部会において、ごみ・流木の問題解決に向けた現地視察や検討が行われた。H27年度の、流域連携に係わる主な検討事項を以下に示す。

- トンボロ干潟でごみの漂着状況確認
- 西尾市吉良町三河湾沖で実施された「海の生き物調査」（矢作川をきれいにする会主催）への参加による海底ごみの現状把握
- ＨＰ上で情報管理が可能なごみマップを用いたごみの実態調査記録の実施合意

トンボロ干潟でのごみの漂着状況確認

底引き網による海底ごみの現状確認

ごみマップ
（国土交通省とプロジェクト保津川が開発）

１．３　土砂問題

主に川と海部会において、土砂の問題解決に向けた現地視察や検討が行われた。H27年度の、流域連携に係わる主な検討事項を以下に示す。

- 小渋ダム土砂バイパストンネル事業の視察
- 総合土砂管理検討委員会検討状況に関する情報共有
- 矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等の検討

土砂バイパストンネル(呑口)工事状況見学

矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて
(技術的な課題と検討の進め方)

平成 27 年 5 月

矢作川水系総合土砂管理検討委員会

総合土砂管理検討委員会における検討状況報告

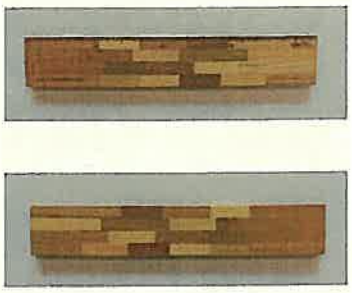
１．４　木づかい

主に山部会において、木づかいの問題解決に向けた現地視察や検討が行われた。H27年度の、流域連携に係わる主な検討事項を以下に示す。

- 木づかい推進における、検討・成功事例（カーボンオフセットの利用計画やプレイスメイキングの効果）の周知と意見交換
- 流域ものさしの製作における、材料の確保、山村再生担い手づくり事例集で培われた人脈の活用についての意見交換

木づかい推進の様子(安城市)

プレイスメイキングによる集客力効果(豊田市)



流域ものさし(試作品)

2　市民会議で得られた意見

2月に実施された市民会議では、今年度の活動成果が報告され、意見交換が行われた。主な意見を以下に示す。

○今後は山・川・海の連携で行うことに重点をおいてはどうか。
○国土交通省としてもっと宣伝、ＰＲする必要があるのではないか。
○矢作川流域圏の活動は、全国に胸を張って説明できる非常に誇らしい先進事例である。
○山・川・海連携のために一つのキーワードが必要だ。
○矢作川流域圏懇談会は、川部会が鍵である。
○山・川・海連携に係わるイベントを年１回行うべきである。
○木づかい、土砂問題の双方に関するＰＲ方法として、木の船に土砂を乗せて流したり、スギで升を作って川や海にまつわる生き物や土砂を量るといった様々なＰＲイベントが考えられる。
○市民が主体であるという位置づけを基軸に、市民が頑張れる仕組み、制度を確立できるようにすべきだ。
○市民会議の出席者が以前と比べ大きく減少している。特に、以前よく発言していた人がみられなくなった。

3　流域連携テーマに関する活動方針

各ワーキング、市民会議、全体会議における意向をふまえ、流域連携テーマに関する活動方針を整理した。

表 3-1　流域連携テーマに関する活動

テーマ	活動方針
ごみ・流木	・海部会WGを中心に実施するごみ・流木に関する検討のうち、国土交通省が開発した「ごみマップ」をベースにした成果を公開する。
土砂	・「砂の駅」構想について、イベント実施するとともに、流域圏としての仕組みを形成する。
木づかい	・山部会WGで検討されている「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ方法を検討する。